

## 卒業に当たって「感謝の言葉」

三角 啓介（法学部総代・衆議院事務局）

私は、このたび学生生活を終え、社会人となりますが、この4年間は常に暗中模索を続けていました。

その中でも最初の六本松での日々は、高校時代から周囲の環境が一変する中で、自分の学生生活の形が決まった時期でした。私の場合は、一般教養を学べる機会はこちらしかないという思いから、幅広い科目を履修するというパターンになりましたが、それは箱崎に移ってからも変わりませんでした。一面から見ればつまらない生活にも思えますが、印象深く熱心に聴講した講義の数々は、楽しい思い出として心に浮かびます。

箱崎に移ってからは、法学・政治学という自らが選んだ学問領域の体系を勉強することと、進路の志望を決めて、実現へ向けての努力をすること、この二つが振り返ってみれば主な課題であったと思います。

前者については、講義科目の受講はもちろんですが、ゼミという場がその中心となりました。何らかの問題に着目し、それについて資料を集めて現状を認識し、それに対して自らの頭で考えて他の人に分かるように意見を発表し交換する。厳しい指導を受けつつも自由に考えることができるという学習環境にも恵まれ、多くのことを学べ、生涯学習であるという思いを持ちました。

後者の進路についても、恩師・友人の助言や支えがあったこそ、志望の決定や努力をすることができました。

この間、目標が明確でなくとも目の前の課題に手を抜かずに取り組むことや、幅広い分野に興味を持ち続けることを意識して学習してきました。これらのことができたのも、多くの先生方、職員の方々、友人、家族の支えのおかげと改めて感じます。そしてまた、そのような私を照らしてくれた「自由の学燈」の永久ならんことを祈って感謝の言葉としたいと思います。ありがとうございました。

## 民間企業という選択肢

森元 慧一（三菱商事株式会社）

大学を卒業して数週間、気持ちはまだ学生ですが、毎朝スーツ姿の自分を見ると社会人になったのだとあらためて思う今日この頃です。私は、ロースクール、大学院、公務員と色々な進路の選択肢がある中で、民間企業へ就職することを決めました。

私は最初法学部に入学したとき、法曹になりたいと思っていました。そんな折、LPセミナーに参加させていただいて、弁護士、検察官、裁判官の方に直接お話を聞く機会がありました。彼らの仕事は本当に大変で、とてもやりがいのある仕事

だと感じたことを覚えています。特に模擬裁判では、裁判官チームとして現場に足を運んだりして、実際の事件を審議しているような雰囲気味わうことができました。

その後、法政基礎演習やゼミナールで先生方と親しくなるにつれて、先生方の豊富な海外での留学経験や、一つ分野のスペシャリストになろうと努力されている姿を見て、自分の将来の姿を徐々に考えはじめました。

私は一体何がやりたいのだろうか。では、今まで何をやってきたのだろうか。どんな時が一番満足感に浸れるのだろうか。

私はそんなことを考えているときに、ちょうど法学部の部局間交換留学制度を知りました。この制度は大学全体の留学制度とは違って、法学部が独自に企画しているもので、メリットとしては海外の大学の「法学部」に留学でき、法学を勉強できるということで、将来、法曹になるにしろ、大学で研究者になるにしろ、公務員になるにしろ、一度ゆっくりと一人で、それも海外で自分の人生を考えたいと思ったのです。

たしかに留学先アイスランドでの生活は思った以上に、何もかもすべて自分の力でやらなければならないで大変なことでした。言葉も読めない、通じない、勝手が分からない、習慣も分からない。さらにいえば、法律書を英語で読解するのも相当のエネルギーを使いました。しかし、そこで感じたことは、英語を通して十数カ国の人と接することで、こんな風に日本は思われているのだとか、こういう所が自分には足りないなと今までとは違う自分の可能性に気づきました。

たしかに、就職した今でも弁護士など法曹という仕事にそこががあるのはたしかです。それに、法学部での教職の授業を通して、教師という仕事も将来的には一つの選択肢として考えています。しかし、法曹や教師など人に何かを伝えたり、考えたり、アドバイスをする立場になる前に、まずは“社会の仕組み”というものを肌で感じてみたいと思いました。そして、海外で仕事のできる、それも全世界的にビジネスをしている会社で業界的にも幅広く関係のある三菱商事株式会社に就職しました。

最後に、九州大学法学部ではあなたの望むことはほとんど全てかかないです。法曹になりたい方は、LPセミナーに参加したり、先輩方にコンタクトをとるもよし、教授と共に一つの問題に対して深くどこまでもつきつめるのも良いでしょう。もし、その中でも民間企業に就職を考えている方、特に東京での就職を考えている方は新設された法学部のキャリアデザイン委員会を通じて、ぜひ私たちにコンタクトして下さい。重要なのはまずは自分から行動することです。皆さんにとって自分の納得いく進路が見つかりますように。



左：三角君、右：森元君